齢七十、世界一周一人旅、古来稀なり。

・・・気ままなちょっと贅沢のんびり求悟旅、70 年の垢を落したい・・・

１．はじめに

「一周」という言葉にあこがれる人々がいる、まさしく私もその一人である。私のふるさと土佐は「四国八十八か所参り」の地の一つでもある。子供のころ祖母に頼まれて、玄関口に立つお遍路さんにお布施をお渡ししたことがよくあった。ほんの少し前まで、巡礼に旅立つということは、その旅の途中で行倒れ、命を終えてしまうかもしれないという覚悟があったはずに違いない。弘法大師と「同行二人」で人生を考え、「一周」して帰ってきたとき、悟りに近い心の安らぎを得られるのだと思う。かくして、多くの人々は巡礼に旅立つのであろう。

今も多くのお遍路さんも訪れる足摺岬(最近は海外の方のお遍路さんも多い)

私が世界一周を考え始めたのは還暦の 60 歳ころだと思う。定年が 55 歳から 60 歳へ、そして 65 歳となって行く中、どこかの時点で、まだ体力・気力・感力のあるうちにしておかなければならないことの一つと考えた。卒業後足掛け 47 年務めた会社を退職、また関連団体や自治体の委員も後進に譲り、NPO の要職からは 2019 年 6 月末日をもって離れた。この機会を外してしまうと、もうチャンスは来ないかもしれない。そして、2019 年 7 月 4 日(70 歳と 2 ヶ月)を旅立ちの日とした。(その後の新型コロナウイルスのため、このタイミングは誠にラッキーであった。このことは、家族や友人たちからも言われるが、その跳ね返りが恐ろしい。私が動くと大地が揺れると家族によく言われる。東南海地震はいつ来るのであろうか。)

このレポートは、本来ならところどころ主観を交えながらもノンフィクションであるべきである。しかし、若干の空想・妄想を加えたフィクションを挿入してみようという思いを持っている。たとえば、司馬遼太郎の歴史小説は歴史的事実と、その補完を作者の創作によって興味ある読み物にしている。私も弘法大師と「同行二人」を、ところどころにフィクションとして取り入れて書き進めてみたい。もとより創作力もなく文才にも欠けるので、どこがフィクションであるかすぐ分かってしまうと思う。

２．計画

「八十日間世界一周」という小説がある。スタートは 1872 年 10 月 2 日午後 8 時 45 分のロンドンから始まる。主人公のイギリス人資産家フィリアス・フォッグが「八十日間で世界一周ができるのか？」賭けをするストーリーで一種の冒険小説である。期限は 1872 年 12 月 21 日午後 8 時 45 分に帰ってくる、掛け金は 2 万ポンド、現在に日本円で換算をして 4 億円、旅行費用も 2 万ポンドかかったことになっている。ストーリーはスエズ運河を通り、インドでは素晴らしい女性と出会い、香港、日本の横浜を経由、サンフランシスコにわたって横断鉄道の開通部分を利用、そしてニューヨークからリバプール、鉄道でロンドンに。ロンドン到着は午後 8 時 50 分、残念なことにわずかの差で賭けに負け、無一文になってしまった。しかし、インドで知りともに旅をした女性と愛を誓う、ラブストーリー・・・？

当時も今も旅へのあこがれは同じに違いない。そして、その「落ち」が素晴らしい。私もこれに倣って東周りで世界一周を計画した。

どこを訪ねるか、日頃、世界遺産の風景やその文化をテーマにしたテレビ番組も多く、どこに行くか迷うところである。また、バックパッカーは少ない予算で多くの日数をかけて多くの場所を回って世界一周をする。私も、ニュージーランドでそのような日本人と出会った。しかし、古希の私にはそのような旅はつらい、「古希の気ままな世界一周一人旅」の所以がここにある。妻子は一人旅を許可する代わりに、アフリカ、中東と中南米はコースから外すように言われた。その結果、まずは 7 月から夏場の北半球を東周りで一周し一度帰国をする。そして、南半球が春となる 10 月からオセアニアとアジアを縦に移動することにして次のような目的（地）を考え選んだ。

・カナダの雰囲気を味わってみたい。
・ジョン万次郎ゆかりのフェアーヘブンを訪れる。
・産業革命の、鋳物で作られたアイアンブリッジを見学する。
・サウンドオブミュージックのロケ地を散策する。
・オーストラリアの雰囲気とご神体ウルルを訪ねる。
・パースではアイアンカーテンを垣間見、シリカサンドの丘を見る。
・日本人が好きなニュージーランドとはどんなところか。

・タイなど以前訪問したアジア圏の友人を訪ねる。

長旅は 30 日を過ぎると疲れが出やすく、注意力が散漫になりトラブルになりやすいという。私もこの考えに賛同する。旅も慣れて来ると横着になる、その意味でも旅の 1 シーズンを 30 日以内で計画、一時帰国後再出発することにした。

旅の情報は家にいながらインターネットで気楽に集められる。玉石混交であること、最新の情報なのかに注意をすれば、間違いのない旅が約束されると思う。それではここから具体的に話を進めてみよう。

1）訪問先

出発は大阪(伊丹)そして帰着は大阪(関西)である。行きたいところから、訪問都市と飛行ルートを考えた。シーズン 1 は大阪伊丹空港を出発し、東京羽田経由で北半球を一周する。シーズン 2 はストップオーバーの東京羽田を出発してオセアニア、アジアをまわり、大阪関西空港に帰るルートである。

シーズン 1 の訪問地域、都市

バンクーバー、カルガリー、ボストン（フェアーヘブン)、テルフォード（アイアンブリッジ)、ザルツブルク、ローマ、ミュンヘン

シーズン 2 の訪問地域、都市

シドニー、ウルル、ロトルア、パース（フリマントル)、バンコクから列車で（ナコンパットム)、ハノイ(ハロン湾)、北京

2）航空券

航空会社はアライアンスを組み、そのアライアンスを利用した世界一周のプログラムを持っている。このプログラムを使って航空券を購入すると安価に容易に世界一周ができる。わたしは、ANA がメンバーのスターアライアンスを利用して世界一周のフライト計画を作った。この世界一周プログラムは HP から入って世界一周プログラムのルールに従ってフライトを組む。購入するのは最後でいつでも OK、変更削除も自由、空港使用税やサーチャージャーの費用も含めた概算金額が出る。ここでフライトを組むだけでも旅行をしているかのように楽しめる。

Wed. 10 July 2019: TORONTO ON - BOSTON MA

Important Notice
Lufthansa flight bookings do not require a reconfirmation after ticket purchase.

16:45 h	TORONTO ON LESTER B. PEARSON INTL (YYZ) TERMINAL 1	AC526 operated by: AIR CANADA
18:16 h	BOSTON MA EDWARD L LOGAN INTL (BOS) TERMINAL B	
Status: confirmed	Class: BUSINESS (Z)	

Fri. 12 July 2019: BOSTON MA - MONTREAL QC

15:20 h	BOSTON MA EDWARD L LOGAN INTL (BOS) TERMINAL B	AC8463 operated by: AIR CANADA EXPRESS - JAZZ
16:43 h	MONTREAL QC PIERRE E. TRUDEAU INTL (YUL)	
Status: confirmed	Class: ECONOMY (Y)	

Fri. 12 July 2019: MONTREAL QC - LONDON GB

22:45 h	MONTREAL QC PIERRE E. TRUDEAU INTL (YUL)	AC864 operated by: AIR CANADA
10:25 h +1	LONDON GB HEATHROW (LHR) TERMINAL 2	
Status: confirmed	Class: BUSINESS (Z)	

Tue. 16 July 2019: LONDON GB - MUNICH DE

13:50 h	LONDON GB HEATHROW (LHR) TERMINAL 2	LH2475 operated by: LUFTHANSA
16:35 h	MUNICH DE MUNICH INTERNATIONAL (MUC) TERMINAL 2	
Status: confirmed	Class: BUSINESS (D)	

Wed. 24 July 2019: MUNICH DE - TOKYO JP

21:25 h	MUNICH DE MUNICH INTERNATIONAL (MUC) TERMINAL 2	NH218 operated by: ALL NIPPON AIRWAYS
15:50 h +1	TOKYO JP TOKYO INTL HANEDA (HND) TERMINAL I - INTERNATIONAL TERMINAL	
Status: confirmed	Class: BUSINESS (Z)	

スターアライアンスの世界一周プログラム

にはいくつかのルールがある。基本的には世界を 3 つのエリアに分けそのエリアを順番に追ってゆくことである。それは右回り、左回りいずれでもよいが途中で戻ることはできない。フライト距離に合わせて 29,000mile 以内、34,000mile 以内、39,000mile 以内の 3 つの距離が選べる。このほか、いくつかのルールがあるがさして難しくはない。料金は 29,000mile のエコノミークラスであれば約 36 万円に空港税や燃料サーチャージを含めて 45 万円程度である。

私の場合、基本ルートの総フライト距離は 34,000mile 以内でビジネスクラスを利用した。この時の航空運賃や空港税などの費用は約 97 万円であった。なお、ビジネス設定のないルート、概して短距離であるが、この場合はエコノミー利用になる。

3）ホテルと現地移動

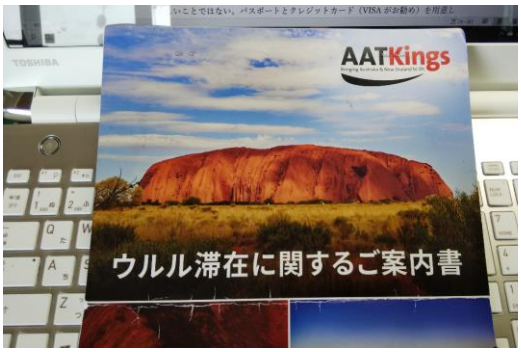
ホテル予約は、特別な理由はなくエクスペディアを利用した。業者によっては得意とする地域がそれぞれにあるが、別段変わったリクエストをするわけではなく、またここを利用するに特に他社との比較をすることもなかった。旅行サイトから予約をすると、品質の安定したホテルの利用が期待できる。また、決済も安心できるのがよい。訪問地でのホテルは価格、設備、交通など旅行サイトの情報とグーグル地図をもとに選んだ。

空港からホテルまでは現地での最初の移動である。当然土地勘もなく、必ずしもランドマークのようなものがあるとは限らない。私の住む斑鳩町は奈良盆地にあり周りを見回すと山々が遠く近くにあり、まったく違った方向に行くという迷子になりにくい。が、旅先ではそうはいかない、ストリートビューも視野に入れておく。

移動は基本的にタクシーの利用はやめて、鉄道などの公共交通機関の利用、駅から徒歩で 20 分(1.5 ㎞)以内の場所にあることを条件にして予約をした。　当然現地での散策移動は公共交通機関を利用した。各都市には 1 日のフリー切符があり、これを利用すると気軽に公共交通機関に乗車できしかも安価である。ネットで購入方法などがわかるので海外に行かれたときは利用をお勧めする。なお、ニュージーランドではいわゆる日本人宿を利用した、選択肢の一つとしてお勧めする。

4）ツアー

ツアーは目的とするツアーを検索し、その中からチョイスした。ツアーはジョン万次郎関連とウルル、パースのツアーを事前に予約、そのほかは現地のツアーを利用した。有名な観光地は事前に予約を入れる方がよく、現地ならではのローカルなツアーは「やは



り現地ならでは」がある。ただ、ウルルのツアーは日本でも人気のツアーだが、現地のホテルはツアー会社で既に抑えられており個人で行くことは難しいと思う。

5）その他の準備

・入国書類等

カナダ(eTA)、アメリカ(ESTA)、オーストラリア(ETAS)に入国するため事前に電子登録しておいた。これは、ネットで容易にできるが事前に記載すべき言葉（英語）やチョイスする事柄を調べておくとよい。旅行会社に依頼することも可能だがさして難しいことではない。パスポートとクレジットカード（VISA がお勧め）を用意しておくこと。

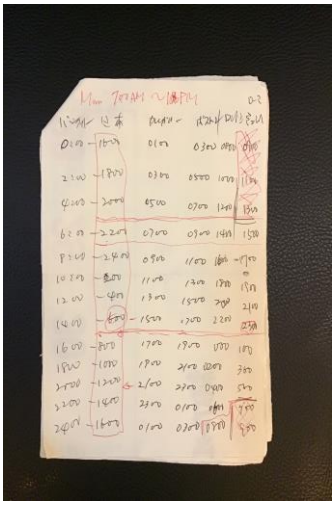
ベトナムには 2 週間以内に再訪する場合ビザが必要となることに注意、そのほかの訪問国では必要な書類は機内で渡される、あるいは申請不要なので事前に用意をする必要はなかった。

・両替、クレジットカード

どの国もほとんどの場合カード決済なので、現金は少しだけ持ち歩くことで問題はない。1 か国あたり 1 万円(合計 10 万円)程度として現金を用意したが、それで十分であった。クレジットカードは VISA、JCB、マスター各 1 枚を用意した。旅行中は VISA だけですべて対応できた、暗証番号を忘れないように。交通機関での支払い、スーパーマーケット、コンビニ、ホテルのデポジットなどほとんどのシーンで利用できるし、した方がよい。ただ小さな食堂では現金を要求されたところもあった。

・海外旅行保険

クレジットカードに付帯されている保険も有効だと思うが、もしものため海外旅行保険にネットで加入した。年齢とともに保険料が高くなる。また、旅行期間が 30 日位を超えるとさらに上がってしまう。保険会社も 30 日を超えるとトラブルが増すことを保険料金に織り込んでいるのであろうか。



・その他

携帯電話は海外対応なのでそのまま持参、常備薬、変換プラグなど旅の小物も必要最小限にとどめた。その中で、カレンダーの裏紙リサイクルから作ったメモ用紙と iPad は非常に役立った。iPad は Wi-Fi を使って現地での情報や、現地ツアーなどの予約もできる。10 インチの画面はわかりやすい。スクリーンショットはメモにもできる。

また、メモ用紙は行く先を告げるときなど、地名

を書いておくとよく伝わる。私はカタカナ英語なので、日本語のカタカナで発音をする。ジャパニーズ・カタカナ・イングリッシュである。地名 （例えばBirmingham）を書いたメモを見せて「アイ・ウオント・ツー・ゲット・ア・バスチケット・フォー・バーミンガム」と言えばOKだった。ポケトークは利用することもなかったが、メモ記載時にスペルを確認するときには使った。日本語を話すと翻訳されてスペルも出てくる。言葉の安心保険の意味を込めて購入したがその価値はあったと思う。

荷物は少ないに越したことはない。シーズン1は夏場、シーズン2前半は初夏と暑い地域で衣類も少なく、小型のスーツケース1個（23×34×49cm）と身の回りの小物を入れる小さな軽量リックサック1個とした。

6）予算

総予算は大した理由もなく、飛行機代100万円、宿泊・食事代100万円、観光・その他100万円と、概算300万円ぐらいであろうと考え、その予算に見合う形で計画を進めた。

世界一周プログラム航空券は空港税や燃料サーチャージを含め約100万円、そして、このプログラム以外例えばシドニーからエアーズロックの往復などを含めると航空券の総額は約120万円であった。

ホテルと食事代は1日あたり15,000円、全日数50日として75万円と見積もった。ホテルは2名一室の設定であり、一人だと割高になる。しかも、夏場のカナダそしてボストン、ロンドンともに考えていた以上に高かく、シーズン1はホテル代のみで予定金額を上回った。シーズン2はむしろ安く済ますことができたので、全旅行中の費用は想定をしていた金額より若干オーバーするにとどまった。

その他、ツアー代、ポケトーク、iPad、海外旅行保険、土産物などの費用があった。

が、酒代を忘れてはいけない。

実際に使用した費用の総額と為替レートは最後の章に記載する。